

香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第53号

2016.3

松韻会創設50周年記念事業「サヌカイト演奏会」



目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2
 - 小学校 p 3
 - 中学校 p 4
 - 特別支援学校 p 5
 - 特別支援教室「すばる」 p 6
- ・松韻会全体報告 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園1～3月のあゆみ p 10



研究主題

～つながる～ 子どもたちの生活を支える

1月29日（金）、第60回附属幼稚園研究発表会を開催しました。県内・県外（広島、徳島、愛媛県など）から約250名の参会者をお迎えし、盛会裏に終えることができました。参会者の先生方、来賓の方々、松韻会の方々に深く感謝しております。

1. 研究テーマについて

(1) 設定の理由

平成23年度より「幼児教育の質を高める計画と実践の在り方を考える」をテーマに一人一人の主体性と協同性を発揮できる生活について研究実践を深めてきました。教育課程の再編成と指導計画の作成を行う過程で、遊びを通して子どもがどのような体験の中で、心を動かしているのか、何を感じ考え、学んでいるのかについて、さらに追究していきたい、そして、子どもの生活づくりを支えたいと考えました。一人一人の体験、一つ一つの体験の意味をていねいに探ること、それらのつながりを見取っていくことが、主体性と協同性を発揮する子どもの生活の充実につながると考え、新テーマへの研究実践に取り組んでおります。

(2) 研究の目的・内容・方法

| 目的 | 内容 | 方法 |
|---|---|---|
| 子どもが充実した生活づくりを行っていくために、「体験」をどのように見取っていくかについて、個々の記録、事例研究での保育カンファレンスを大切に行い、多様な見方・考え方から見つめ直し、体験の意味を探る。 | ○子どもが遊びの中で体験していることをていねいに読み取る。 ○一人一人の体験に目を向け、教師の援助について探る。 | ○写真やエピソードを取り入れた保育記録を基に、 ①子ども・遊びの理解 ②教師自身の振り返り ③次の保育への見通し（環境・援助等）の視点で振り返る。 ○事例を通して、保育カンファレンス（意見交流）を行い、多様な見方・考えをもち理解を深める。 |



書くことで保育を紡ぐ

2. 研究の成果

(1) 体験を探る

- 目に見える形として、同じと見られる遊びや子どもの姿でも、一人一人の内面により、それぞれの体験の意味の違いをもっていることが、分かりました。
- 体験と体験のつながりの見取りは、子どもの育ちの過程を見つめられることを再認識しました。

(2) 教師の援助について

- 保育記録と保育カンファレンスにおける視点を明らかにした教師自身の保育・援助の振り返りが体験の意味の見取り、援助の改善、環境の再構成につながることを再認識しました。
- 子どもの育ちの過程の「今」を「過去」とつなぎ、「未来」へとつないで、考えていくことが、生活を支えるためのつながりをさらに探究できることが分かりました。



講演「出来事をともにつくる保育～どの子もテーマをもって生きている～」

北海道大学大学院教育学研究院 准教授 川田 学 先生

「生きることで生かす」

子どもの生活を支えるのは、人・もの・ことを含む環境です。よりよく生きようとする思いや行動を大切にしていくこと、大人がそうした姿を見せていくこと、つまり、生きることで生かすことです。じっくりと花を咲かせる「アメフリボタン」（北海道産）に例え、種を撒き、水や光や栄養を適切に与えながら、待つ大事さを伝えられました。

「関与することでつながる」～お互いさまの関係～

自分と相手をつながり合わせていく行動は、子どもの自発性から生まれています。つなぐ中で、他者を自分のこととして、感じていくことになります。そのとき、自己の成長にもつながるのです。

「あたためることで生える」

どの子も自分のテーマをもって生きている、支えているのは自分を揺り動かす感情（心）であり、それらの表れが行動として見えてきます。言葉にならなくとも、じっくりとあたためている姿の見られる幼児期の子どもの姿を見取って支えていきたいと願います。

*川田先生には、子どもの思いを代弁されているのかのように感じ考えさせるお話が多く、今後の保育に生かしたいと強く後押しされました。

教育研究発表会に県内外から1450名参加

1月28日と29日の2日間、第98回附属坂出小学校教育研究発表会が盛大に行われました。県内外の小中学校や教育関係機関より、2日間で延べ1450名の参会者をお迎えし、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。

本年度は、「対話を通した『思考力』の育成－『育てるカウンセリング』を生かして、個々の考えを広げ深める授業づくり－」をテーマとし、学び合いを重視した研究を進めてきました。北海商科大学から大友秀人教授、文部科学省から水戸部修治調査官、香川大学からは社会科の伊藤裕康教授、道徳の七條正典教授、特別支援教育の坂井聡教授を招いて研究の方向性について確認するとともに、17本の研究授業ではそれを具現化した形で披露し、参会者から貴重なご意見をいただきました。

会の準備や運営では、松韻会役員、常任委員、OYGやお助けママーズの方々、学生の皆さんの多大なる協力を得ました。寒い中、また2日目は雨も降る中、受付や交通案内をしていただき、本当にありがとうございました。

■ ◆ ■ 研究授業 ■ ◆ ■

2年 道徳の時間「友達っていいな－ないた赤おに－」

平成30年度からこれまで行われていた「道徳の時間」が「特別な教科道徳」として実施されることから、今回の研究会では、道徳の研究授業を公開しました。

子どもたちにとって、そばにいてくれる友達は大事な存在です。時にはけんかをしたり、考えをぶつけ合ったりしながら過ごしています。ただ、この関係が当たり前になると、相手への思いやりを忘れてしまうことがあります。このような友情について、「ないた赤おに」の資料を用いて考えることにしました。



【「ハートカード」を基に交流】

授業の初めに、「『友達』ってどんな人？」という問いから導き出された、子どもたちの思いを知りました。そして、友達についての思いをより深めるために、資料の中の赤鬼の立場になって、願いをかなえてくれた青鬼への気持ちと、赤鬼のためにいなくなった青鬼への気持ちの両方を表出させ、どちらが自分の気持ちと近いのか選択できるようにしました。すると、願いをかなえてくれた青鬼に対しての思いは、「ありがとう」であり、赤鬼のためにいなくなった青鬼に対しては、「ごめんね」という気持ちが生まれました。その際、教師が青鬼の役になり話しかけることで、どんな気持ちになるのか考えやすくなるようにしました。また、自分はどちらの思いが強いかを視覚化できる「ハートカード」を用いて対話しました。子どもたちは、「ごめんねもあるけれど、ほくのためにありがとうもあると思うな。」と、後悔の気持ちだけでなく、赤鬼のためにしてくれた感謝の気持ちが重なることに気づき、友情の意味に迫っていきました。



【対話を通して友情を考える】

3年 国語科「ぼく・わたしのオリジナル詩集を作ろう－気持ちを言葉に－」 片岡 亜貴子

3年生では、心に残ったことばや表現技法が用いられたことば等を手がかりにして、詩の情景を豊かに想像し、お気に入りの詩や自作の詩をオリジナル詩集にまとめていく学習を行いました。子どもたちは想像したことを頭のテレビに映しながら詩の世界のイメージを膨らませ、詩の中の「どのことばから、どんなことを感じたのか」を互いに伝え合いました。



【表現技法を色分けして示す】

対話の際には、一人の発言時間を設定し、教師が時間を区切りながら進めていくようにしました。自分の発言の時間が確保されることで、必然的に全員が対話に参加し、さらに発言者に対して周りの子が質問や意見等の反応を返す時間が確保されます。これまでの学習で、うなずきや相づち等の「態度」による反応だけでなく、疑問に思ったことを質問したり感想を伝えたりする等の「ことば」による反応を大切にする経験を重ね、徐々に互いを認め合う雰囲気が育ってきました。友達が自分の話を聴いてくれたという喜びが、また発表したいという次への意欲につながっているのだと思います。



【その詩を選んだ理由を伝え合う】

交流を通して、同じ詩でもよさを感じる部分がそれぞれ違うことや、同じことばからでも異なる捉え方ができること等を知り、一人一人の感じ方の違いを楽しみながら、自分自身の読みを深めていくことができました。

「学ぶこと」と「生きること」をつなぐ「ものがたり」
 — 個が響き合う共同体をめざして —

ペアスピーチははじめました！

すなおに語り合える空間をつくり出すため、帰りの会ではスピーチの活性化に取り組んでいます。以前は、個人でのスピーチだったものを、日直のペアで対話形式、ペアスピーチにしました。クラスでばらばらだったテーマも、文化部の生徒が毎週考えた「私の好きな○○」「一番の思い出」などの全校で統一されたものにして実施しています。

その結果、一人でスピーチをしていたときよりも深く聴き、発表内容に対して質問をする生徒が増えました。

語り方の工夫として、①聴衆に問いかける②実物や写真を用意する③黒板を利用する、という3つの視点を示しましたが、生徒同士で真剣に打ち合わせをする姿なども見られ、「相手のことを理解できた。」「相手が話す内容をしっかり聴いて質問をすることができるようになった。」といった声も聞かれます。まだまだ課題もありますが、互いがすなおに語り合える空間をつくり出せるよう、今後もペアスピーチに取り組んでいきます。



【写真を使ってスピーチをする様子】

2016新CANスタート！

本校の総合学習CANは、次の言葉の頭文字をとったものです。

C・・・Cluster (クラスター) 異学年合同の小集団

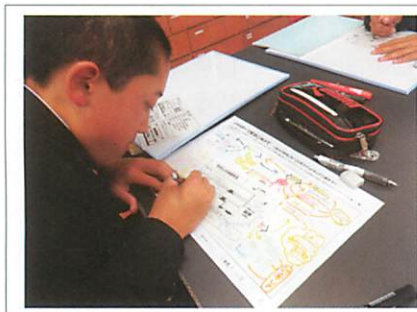
A・・・Action Learning (アクション・ラーニング) 交流学习法

N・・・Narrative Approach (ナラティブ・アプローチ) 振り返り法

総合的な学習の時間を使って、私たちの身の回りの世界すべてを対象に、興味ある内容を探究し、自らの可能性を拡げていく附属坂出中学校の「本物の学習」です。



CANでは自由に探究課題が設定できる一方で、課題設定に悩むクラスターが多く見られます。そこで「課題設定のコツ」というワークシートを活用し、生徒が探究課題（テーマ）をSTEP1～3と段階的に考えられるようにし、教師や生徒が質問をしてかわりながら気づきを促していくという工夫をしました。今後は、課題や探究方法などをよりよくするために互いにクリティカルに聴くことと問うことができる空間づくりを工夫していこうと考えています。



【「課題設定のコツ」を活用し、課題を練り直している様子】



【マインドマップを使っているプレゼン中】

今年どんな研究ものがたりが生まれるか・・・楽しみです！

第18回教育研究発表会報告

研究主題

分かって動けて学び合う授業づくり
～参加を高める三つの視点～

1月23日（土）、第18回教育研究発表会を開催しました。寒波到来の予報に、前回の大雪の中でのご存じの方々からは、当日の天候をご心配いただきましたが、おかげ様で大きく崩れることもなく、無事に会を終えることができました。

午前中には、「児童生徒が分かって動けて学び合う」姿を実現するための「授業改善の方法」について提案を行った後、小学部・中学部・高等部それぞれに改善を重ねてきた授業を公開し、友達と共に、主体的にいきいきと活動する児童生徒の様子を実際に見ていただきました。

午後からは、研究授業で使った教材を授業会場に展示し、授業者が質問を受ける「授業者と語る会」を実施しました。話しやすい雰囲気の中で、ご参会の皆様と授業づくりについて具体的に語り合うことができました。その後、各部の分科会にて、これまでの取組や当日の授業説明を行い、それぞれの部の段階に応じた授業の内容やねらい、授業づくりの在り方を提案しました。会の締めくくりには、平成22年度から継続してご指導いただいている、香川大学教育学部特別支援教育講座教授 武蔵博文先生から、「特別支援教育のための分かって動けて学び合う授業をデザインする」と題して、これからの特別支援教育にとって大切な授業づくりの在り方について、具体的にお話しいただきました。

小学部

小学部では、「チャレンジタイム」と「帰りの会」の研究授業を実施しました。「チャレンジタイム」は、児童それぞれが個別の課題に取り組む学習です。その学習の中で、児童がそれぞれの課題に自立的・主体的に取り組めるための、課題の意義の伝達、分かりやすい教材、達成基準の明確化、友達との相互評価などの工夫を提案しました。「帰りの会」では、児童それぞれが役割を担い、児童同士のやり取りで会を進行する学び合う姿も見えていただくことができました。



<授業者と語る会>



<講演>

中学部

中学部では、「中学部クリーン大作戦～仲間と共に取り組もう～」の研究授業を実施し、生徒が掃除に目的意識をもち、仲間と協同して取り組むための支援の工夫を提案しました。

授業では、仲間同士で掃除の作戦を立てたり、結果を報告し合ったりするなど、生徒の主体的な取組が随所に見られました。周囲から感謝され、認められることで得られる自己有用感（「誰かの役に立てた」など）に満ちた生徒の姿を全国に発信することができました。



高等部

高等部では、暮らし（学校設定教科）で「掃除スキルを高めよう」の研究授業を実施しました。卒業後の生活を見据えて、家庭で主体的に掃除する力が身に付くように授業展開や支援環境を工夫しました。授業では、掃除中のビデオを見て課題を話し合ったり、模擬体験しながら気付いた新たな掃除方法を伝え合ったりする姿が見られました。

思考し、学び合うことが、より実践的なスキルの習得につながることを提案することができました。



会を支えてくださった皆様へ

お忙しい中、会の運営を支えてくださった保護者の皆様、附属坂出学園の先生方、学生の皆様に心より感謝申し上げます。

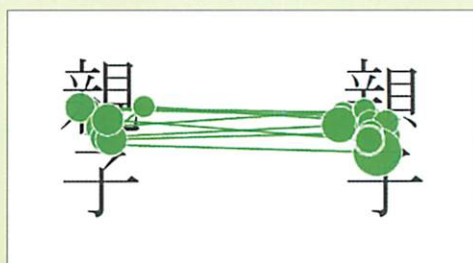
本当に、ありがとうございました。



特別支援教室「すばる」で行っているアセスメントの紹介

特別な教育的ニーズのある子どもの個別指導を行う際に、子どもの状態や特性を把握するためのアセスメントは必要です。特別支援教室「すばる」で行っているアセスメントの一つとして、今回は目の動きを測定する装置（眼球運動測定装置）を利用した事例について紹介します。

はじめに、文字の形を捉えることに弱さをもつ児童の例です。正しい漢字と一部が異なった漢字を見比べて違いを探し出す課題中の目の動きを測定しました。下の図は、その測定結果の一例です。漢字の上の丸の数は視線を向けた回数、見ていた時間は丸の大きさに表されています。丸を結んでいる線は視線の動きです。この児童は、はらいなどの斜め線が一部異なる文字や線の重なりが多い文字のときに、違いを見つけ出すまでに時間がかかっていました。そのときの目の動きは、違うと思われる箇所を長く見続けていましたが、正確に見つけられずに何度も文字の上を視線が通過していました。なんとなく形が違うことは分かっているのですが、どのような形なのかを具体的に捉える難しさをもっていました。これらの測定結果から、視覚と触覚の両方を使いながら文字の形を捉えていけるように支援をしました。また、学校に対しても、漢字の細部を捉えやすくするために文字を少し大きく書いて提示してもらうように依頼しました。



次に、目の動きがある条件下で抑制を失う児童の例を紹介합니다。文字や数字、線で描かれた物や動物の名前を声に出して答える課題中の目の動きを測定しました。答えがすぐ分かるときの視線は前を向いていますが、言葉を思い出すことが難しく答えに時間がかかるときに、視線を正面に向けておくことがとても難しいようでした。大人でも過去を思い出す質問に答えようとすると、視線は左上か右上のどちらかを一瞬向くことが知られています。本児は会話の相手からよそ見をしている、話を聞いていないと思われることがあったようですが、その原因の一つとして、言葉を思い出すことが難しいときに懸命に記憶を探っていることが考えられました。

このように、目の動きから子どもたちがもっている特性の一部を垣間見ることができます。

私たちは、日常生活の中で“見ること”を意識して行うことはあまりないかもしれません。なおさら、目の動きを意識的に制御することはないかと思ひます。子どもたちも同様に、教科書を読むため、黒板を書き写すため、友達の表情を読み取るために、意識的に目の動きを制御しているわけではありません。「目は口ほどにものを言う」と言われますが、目の動きを測定することで、子どもが今どのような状態であるかを知ることができます。

【平成28年度の特別支援教室「すばる」の申込みについて】

平成28年度の特別支援教室「すばる」へのお申込みは、4月13日（水）より受付を開始いたします。申込みの手続きにつきましては、ホームページの【申込み方法】をご覧ください。

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/>

本年度OYG（おやじ）クラブを立ち上げました。数回の打ち合わせをした後、3つの部会に分かれて様々な事業を実施しました。夏休みに入ってから行った1・2年生対象のカヌー体験では、初めての子どもがほとんどでしたが、府中湖を一人でスイスイ気持ちよさそうに漕ぐことができていました。そして「夏休み自由研究応援プロジェクト」として道路公園の働く車見学とボーリング体験&探検を行いました。普段見ることのない設備を見たり触れたりして、子どもたちの目は輝き通してました。秋にはサッカー交流を行いました。子どもも大人も、男の子も女の子も全員一緒になってサッカーボールを追いかけて、心地よい汗を流しました。

11月14日土曜日、附小フェスタの午後に「OYG逃走中」を開催しました。あいにくの雨模様でしたが、多くの子どもの期待に応えてぬかるみの多く残る運動場を中心に、北校舎一帯までを会場として行いました。悪の組織「黒附属社」一味の手から逃れ、ミッションを遂行し、囚われた仲間たちを救出できるだろうか？



まず1～3年生、そして4～6年生対象に2回開催しました。雨のため一時体育館に避難し、体育館内で行いました。サングラスにスーツ姿のハンターから逃れ、坂出三金時（みかん、にんじん、いも）を発見し、所定の位置まで持ってくればミッションがクリアできますが、そこはハンターが自由にさせてくれません。飛び入りの先生ハンターも登場し、大人も子どももヒートアップ。運動場で泥だらけになりながら、必死に逃走を繰り返していました。参加児童100名、参加保護者（ボランティア）も100名近く集まったのOYGの一大イベントで、3・4年生のOYGメンバーが中心に企画・運営していただきました。今後の恒例行事になるような期待も膨らむ一日になりました。

2月1日月曜日、午後に「OYGキャリア教育」授業を6年生対象に行いました。これは6年生の保護者による仕事紹介授業で、子どもが今後就くかもしれない仕事の楽しさや苦勞を教えてくださいました。まず三好美鈴さんによる「整理収納アドバイザー」という仕事で、家の中の収納のアドバイスをしたり、片付けの仕方と一緒にいたりするものでした。人が苦手としていて、自分が得意な分野で力を発揮しているお母さんで、楽しみながらやりがいのある仕事であると感じました。次に西条仁さんによる通信設備業の仕事です。西条さんは、学校や公共施設の音響や通信設備を整備したり、電話設備の提案をしたりされています。携帯電話等の情報通信が発達する中ではありますが、夢をもって新しいソフトの開発に取り組まれています。お二人とも人に喜ばれること、そして自分自身も楽しむことをモットーに仕事をされていて非常に参考になりました。



1年を通して多くのお父さん、お母さんに協力をいただき、子どもたちが様々な体験をすることができました。その体験を通して得た感動や驚きは、今後の学校生活や社会に出てからの良い思い出にできることと思います。

ご協力していただいた方々、本当にありがとうございました。来年度以降も我々OYG自身が楽しみながら子どもたちのために運営していきたいと思っています。

幼稚園より

新春ふれあい登山

1月13日、出発直前まで雨模様でしたが、なんとか天気も持ち直し全園児、先生方、保護者が一緒に角山に登りました。黄組さんは初めての、そして青組さんは最後の登山です。幼稚園から登山口まで、黄組さんは青組さんに守られ、登山口からはそれぞれ自分のペースで一生懸命登りました。赤組さんは2回目の登山ということもあり、自分でペース配分を考えしっかり登れました。

直前まで雨が降っていたこともあり、急な坂道や石段が濡れて滑りやすくなっていましたが、保護者の心配をよそに子どもたちはお友達と手をつないだり、落ち葉を拾ったり、休憩所で海や船に歓声をあげたり元気いっぱいでした。頂上での記念撮影の後は、ブランコで遊んだり頂上からの景色を見たり元気に走り回る子どもたち。途中雨がパラつきましたが、寒さを全く感じさせません。

下山中も決して良いとは言えない足場の中、「ヨイショ、ヨイショ」と降りていくたくましい姿に、子どもたちの成長を感じた一日でした。



石段もしっかり登って



親子・みんな・笑顔



山道 どんどん行くよ

小学校より

【四附連親睦球技大会】

11月21日（土）、愛媛大学教育学部において四附連親睦球技大会が行われました。坂出学園からはソフトボール2チーム、バレーボール1チームが参加しました。結果はソフトボール（ファーストピッチ）が見事に準優勝に輝きました。みなさんの大きな応援が選手の後押しをしました。また、相手の見事なプレーにも拍手する姿は、秋の青空のような清々しさを感じました。その後、表彰式が松山市の教育会館で行われ、各チームの健闘をたたえ合いました。

【土曜メンテナンス】

11月28日（土）の午前中に小学校の土曜メンテナンスが行われました。保護者、児童、先生方、合わせて約40名が参加し、運動場の土入れ、木製品の塗装、長机や歯ブラシ棚の修繕等を1時間ほど行いました。みなさんの協力のおかげで小学校の環境を整えることができました。これからも、児童が安心して学校生活を送れるように、環境改善の応援を続けていければよいと感じました。



【坂出市PTAソフトボール大会】

12月6日（日）、林田町総社グラウンドにおいて開催された坂出市PTAソフトボール大会に小学校チーム、幼稚園チームで参加しました。結果は、幼稚園チームが準優勝、小学校チームは見事、優勝しました。校区の広い附属坂出小学校において、スポーツを通じて保護者同士の絆が深まるよい機会となったと思いました。



中学校より.....

保護者による進路学習およびオープンカフェ

12月5日（土）オープンスクールの4時限目に「保護者による進路学習」を行いました。今回初の試みとして、保護者の方に講師になっていただきたく募集をしたところ、9名の方がご参加くださいました。1・2年生を対象として行い、前半後半で2つの職業の話聞くことができ、進路選択の1つの目安になることができたかと思えます。来年度からも継続して行っていきたいと思えます。ご参加いただいた保護者の方々、ありがとうございました。

また、同時に3回目となる「保護者交流カフェ」も開催いたしました。大勢の方にご参加いただき、保護者同士の交流も深めることができました。



坂出市PTAソフトボール大会

12月6日（日）に坂出市PTAソフトボール大会が開催されました。今年も予選リーグを全勝で通過しましたが、昨年と同じ対戦相手と決勝で対戦し、惜しくも4対6で負け準優勝となりました。来年こそは優勝目指して頑張ります。



サヌカイト演奏会

2月8日（月）に松韻会創設50周年記念事業として「サヌカイト演奏会」を中学校体育館にて行いました。大勢の保護者の方もご出席くださり、生徒達とともに素晴らしい音色が染み渡るひとときを過ごすことができました。

特別支援学校より.....

文集作り ～親和会 文化部活動～

親和会文化部では、毎年、保護者の方々に原稿を依頼し、文集「親和だより」を発行しています。タイトルは問わず、子どものことや家族のこと、日常あったささやかな出来事、在学中の回顧や来年度の抱負など自由に書いていただいています。親和会文化部の仕事の中では最も忙しく、そして皆様に思い出をお届けするといった責任のある活動です。部員一同、気合いが入ります。文化部会で発行までの全体的な流れを学校と相談して決めています。

冬休み前に保護者の方々に原稿の執筆依頼をし、原稿が集まったらパソコン入力・イラスト入れ・レイアウト・ページ打ちを部員で手分けして行い、仕上げていきます。学校に集まれる部員さんには印刷・ページ取りのご協力を、学校に来られない部員さんには、家事や仕事の合間、お子さんが寝た後などに原稿のワープロ打ちをご協力いただいていますので「ありがとう」という気持ちでいっぱいになります。そうした協力の下、思い出の一冊に仕上げる事ができています。会員の皆様にお届けできることが、文化部活動の1年の締めくくりとなります。原稿をいただいた方の思いを伝えることができたということで心が温まり、完成をうれしく思います。



3年生激励会

1月8日、3年生激励会が行われました。もうすぐ受験を迎える3年生の合格を祈願し、1・2年生一人一人の応援メッセージを記しただまとシクラメンを3年生に贈りました。メッセージには「夢の実現に向けて頑張ってください。応援しています。」等、先輩方が無事突破できるようにとの願いが込められていました。このだまは生徒会役員が一人から作ったもので、これまでお世話になったことへの感謝の気持ちがつまっています。

体育館の改修工事のため、放送による激励会でしたが、今年も附坂中生の強い絆が感じられる心温まる会となりました。



修学旅行事前学習

次年度の修学旅行は4月9日(土)～4月13日(水)です。2年生は屋久島や鹿児島島について自然や文化、平和に関する事前学習を行っています。修学旅行プロジェクトのメンバーが中心となって作成した鹿児島紹介プレゼンテーションは、大変充実した内容で、自主研修に向けて学習テーマを決める際に役立ちました。

修学旅行のテーマは「TIME ～最高の瞬間を～」です。5日間が一人一人の心に残す素晴らしい瞬間となるよう準備を整えたいものです。



中学校

挨拶スキルトレーニングをしています。

生活面において、今年度は挨拶に重点を置いて取り組んでいます。学校の友達や教員だけでなく、挨拶すべき相手には様々な人がいます。それらの人々に対して、自分から明るい笑顔で挨拶ができると、気持ちがいよもです。これをスキル(技能的な能力)として身に付けられるように、全校生が学期に1度のトレーニングをしています。



朝の会の後、教員が、業者の方、保護者の方、交通指導をしている方、地域の方等に扮して、歩いている子どもとすれ違いますが、6年生は、ペア学年の1年生といっしょに歩き、相手との距離や声の大きさの手本を示します。



教員は、子どもの挨拶が聞こえたか、挨拶されるかどうかの気持ちになったかを、その場で伝えたり、全校朝礼で話したりしました。このようにして、少しずつ挨拶への意識が高まり、自分からできる子どもたちが増えてきています。

小学校

特別支援学校

第18回かもめギャラリー作品展

2月3日(水)～2月10日(水) 日頃の学習活動の中で制作してきた作品を、坂出駅の「かもめギャラリー」に展示しました。多くの人にご覧いただき、たくさんの温かい感想を寄せていただくことができました。

小学部

根気よく丁寧に紙を貼り合わせて作ったカレンダーの挿絵や好きな言葉を選んで書いた書き初め、自画像や季節ごとの造形作品などを展示しました。一人一人の個性がしっかりと発揮できた作品が並びました。



中学部

野菜スタンプやローラーを使った作品、共同制作した迫力ある獅子舞、廃材を組み合わせて作った「まち」の工作などを展示しました。生徒のモチベーションを生かし、みんなで協力して作り、見ごたえのある作品に仕上がりました。



高等部

美術の時間に制作したステンドグラスや折り紙建築、共同制作のドラゴンなどを展示しました。また、作業の時間に作った陶器や手芸作品も出品しました。かもめギャラリーで多くの人に見てもらおうことを励みに制作しました。



幼稚園

小学校体験

4月から1年生になる年長児(青組)の子どもたちが、小学校体験をしました。体験に行く日を楽しみにしていた子どもたち「運動場で遊んでみたい」「給食を食べるのが楽しみな」「どんな勉強をするのかな?」など、ワクワクドキドキした気持ちで小学校へ行きました。1年生の教室で生活したり、小学生のお兄さんお姉さんたちとの交流活動をしりました。

学校探検

「小学校には何があるの?どんなところなの?どんな人がいるの?」と新しい場所に興味をもっていた子どもたち。まずは学校探検をしました。学校探検を通して、小学校の広さや大きさを感じながら、実際にいろいろなものを見たり触れたり、先生方とかがわたりして親しみの気持ちを膨らませていきました。



【副校長室】
「入学楽しみに持っている」と話してくれた副校長先生。手品を披露してくれました!子どもたちはびっくり!

【職員室】
先生が仕事をする部屋は覗いてはいけません。先生が話しているね。たくさん先生の先生がいるんだね。

【運動場】
竹馬に挑戦していました!「男の子の方がいっぱいいるね。運動場で遊んでみたいね。男の子の方が大きいね。」

交流活動

1,2,5年生と一緒に交流活動をした子どもたちですが、中でも2年生東組さんとはこの1年で野菜と一緒に育ててパーティーをしたり、お団子と一緒に作って食べたりして交流を重ねてきました。今回は、2年生が生活科の授業で作ったすごろくやカルタと一緒に楽しみました。青組の子どもたちは、幼稚園でもすごろくを楽しんでいましたが、2年生の作ったすごろくはアイデアにあふれていて、止まったところで歌を歌ったり縄跳びをしたりすることに面白さを感じていました。



このマスで止まったら、ワープできるよ!動物の真似をするマスもあるよ!

読み札を全部読んでから取るよ!よく聞いてね。

1年間の交流を通して親しみが深まっている分、すごろくやカルタを皆で囲んですることで、自然と温かい雰囲気になり、2年生のリードの下、会話や笑顔を交わしながら楽しむ姿がありました。その姿からは、互いの気持ちが通い合っていることが伝わってきました。

編集後記

今年は例年になく暖かい年の初めでしたが、その後の寒波により大変厳しい寒さとなりました。そのような中、附属特別支援学校、附属坂出小学校、幼稚園の研究発表会が県内外の先生方をお迎えして盛会のうちに終えられましたこと、皆で喜び合いたいと思います。

また、春の選抜高等学校野球大会に県内より2校の出場が決まるといううれしい知らせも届きました。高松商業高校監督(前附属坂出中学校野球部監督)である長尾健司先生の「目標はアウト1つを取ること」という言葉は、子どもの豊かな学びや成長を願う私たちにとって、日々の実践の積み重ねの大切さにも重なりました。

保護者をはじめ関係の方々、今年度も温かいご支援、ご協力をいただきありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

発行年月日：2016年3月9日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

倉野 晴代 (附属幼稚園)

樽本 導和 藪内 雅昭 (附属坂出小学校)

小林 理昭 可児智恵子 (附属坂出中学校)

合田 卓生 有家由佳子 (附属特別支援学校)